

公益社団法人
中部日本書道会

濃飛

濃飛支部会報
第6号

●発行●
平成29年2月
濃飛支部広報部
電話 0573-65-6982
FAX 0573-65-6982

●印刷●
(株)協和印刷工業

題字 故永治秋聲

第66回中日書道展 準大賞 受賞

準大賞を頂いて

林 幸湖



此の度、栄誉ある賞を戴き心より御礼申し上げます。これは諸先生諸先輩の長年に亘る御指導と社中の皆様のおかげと深く感謝を申し上げます。

思えば昭和五十五年五月五日、私は、何かを始めようと永治秋聲先生の門を叩きました。同じ職場には先生の門下生が沢山いらっしゃって、当時中津川市内では、書道展や書き初め展等とても盛んな時代でした。

40才になった私は結婚、出産を終え、この先停年後にも一生取り組める何かを探していました。五人兄弟で兄と姉は字が上手でした。

その頃は、筆で教科書や帳面などすべてに名前を書いてもらう時代、終戦の翌年小学校入学した私は新聞紙一枚が教科書。たたくで折って糸で綴じることが家での仕事。帳面は王子製紙の表、

ツルツル裏はザラザラのワラ半紙と言われるものでした。子供たちは一様な緑のズック(布)の紐で結ぶランドセルが町から支給され

登校しました。習字の時間があがり、手の型の墨と兄のお下りの硯で時々墨の中に砂も混じっていて硯にキズも付きました。最初に習ったのは、ツルカメというカタカナだったと思います。高校時代は習字は選択科目でした。

書道と言われる門はこの時から始まりました。しかし師匠の永治先生は三年前に亡くなられ、常に指導も同じくされた奥様も今年五月に亡くなられてこの受賞を報告出来なかった事も残念でした。本

の大好きだった奥様、私も大好きな本の中で、二年間かけて読み終えた郷土の文豪島崎藤村の『夜明け前』日本と中津川、馬籠の歴史がそこにあり、それを私なりに書いてみたいと思いました。その作品でこの賞を戴いたことに

濃飛支部 書道講習会

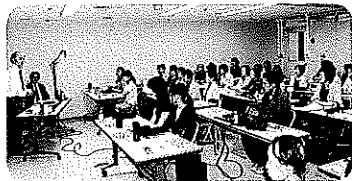
中部日本書道会 副理事長 兼 事務局長 関根 玉振 先生

一から始まる基本楷書 「書いてみよう」

七月に入り快晴の夏の七月一日より三日間の第三十一回濃飛支部展も恙なく終了、展覧会場を後にして関根先生の講演会場に向かいました。

会場は中津川駅前、にぎわいプラザ二階、展覧会場は五階ですが、エレベーターで下りるだけです。そこはとても活気に満ちていました。会員の教え子を含む、小・中高生それに会員もギッシリと袖がふれる程集まって、一つの長机に三人、中には四人の人が、それぞれ、下敷や墨や硯など書道道具を揃えて先生をお迎えしました。

楷書の基本をプロジェクターを使って教えて戴きました。同じ一でも六朝、虞世南、歐陽詢、褚遂良、顔真卿、鄭道昭など筆の使い方の違



とても感慨深いものがあります。死ぬまで書けよと言われた亡き先生の言葉に導かれて今後も鈍な私なりに頑張っていきたいと思えます。今後共よろしくお願い申し上げます。本当に有難うございました。

いが力強さやのびやかさ、変化の面白さなど作品が違ってくることを練習を通じて教えて戴きました。今年は中高の生徒も多数参加し、又他市からの参加もあり四十六名が受講しました。皆さん熱心に筆の運び方を練習していました。来賓の先生方も机間を廻り丁寧に指導して下さいました。最後に関根先生のパフォーマンス。受講者のリクエストに応え何作品も揮毫して下さいました。その度に歓声が上がっていました。

二時から三時三十分までの時間はあつという間に過ぎて、もつと聞きたかった。もつと書いてみたいと思いましたが、充実した九十分でした。



関根先生揮毫作品

平成二十八年度 第三十一回濃飛支部展

会期 七月一日(金)～三日(日)
会場 中津川市にぎわいプラザ五階

出品点数 六十点
賛助出品 四点

本部より伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長、大池青岑企画委員長の方々より貴重な作品を展示して戴き支部展に華を添えて戴きました。会員の作品も大きな字で線筆も鋭く迫力のある作品等目に止まりました。
入場者は三百余名でした。



濃飛支部展の感想

市川 純慧

本年度の支部展は書に興味ある方、会員の関係者が数多く来場され、色んな感想を頂きました。関根玉振先生には一作品ごと目を通してアドバイスも頂き非常に勉強になりました。今後は、子供にこの様なすばらしい書に興味、関心をもつて貰うために何をしていくかが課題だと思つた支部展でした。

支部集会

日時 七月三日(日)
会場 中津川市にぎわいプラザ

ご臨席頂いた本部から関根玉振先生、山内紅鶴先生、佐野翠峰先生、上小倉積山先生。

総会の始めに本部の先生より御挨拶を頂きました。続いて議案審議に入りました。二十七年事業報告、二十七年収入支決算報告がなされました。会員が少数の為、予算収入が少なく問題もありますが全員一致で了承されました。次に二十八年度事業計画案でそれに伴う二十八年度収支予算案が提案され可決されました。

交流会

日時 七月三日(日)
場所 恵那峡ランドホテル

今年フルート・オカリナフレンズの皆さんによる演奏でオープニングを飾って頂きました。

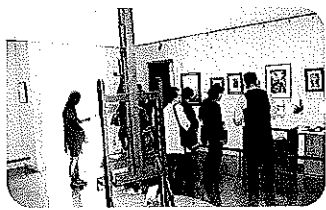
乾杯のあと淡いピンクのステージ衣装に身を包んだ美女八名の登場でした。会員の皆さんの馴染みの歌を演奏して頂きました。熱心に聞き入って頂きました。宴もたけなわ話に花が咲き本部の先生方に書についての質問をしたり、自分の思いを話したりと時間が立つのも忘れる程でした。又会員相互の話合いも出来有意義な交流の場が出来ました。



研修旅行

期日 十一月二十日(日)
行先 知多半島・杉本美術館見学
アトリエぜんきゅう見学

七時半に下呂を出発、中津川・恵那で会員を乗せバスは中央道、伊勢湾岸道、東海環状道、知多半島道路、南知多道路を進み美浜ICで降りて杉本美術館を見学しました。杉本美術館は目立ちにくい場所にひっそりと建っていました。中に入ると驚きました。健吉の新平家物語の挿絵や依頼された広告の数々、本人が描きたかったであろう風景や人物画の数々、陶器や木工作品など沢山の作品がいくつもの部屋に展示されていました。ゆっくり鑑賞するには時間が足りない程でした。昼食は師崎活魚の美舟、海辺の景色の良い場所で美味しい料理を戴きました。その後、にはぜんきゅうさんのアトリエへ行きました。バスの駐車場まで息子さんが迎えに来てくださり家まで案内して頂きました。ぜんきゅうさんにはお会い出来ませんでした。奥様と息子さんに色々お話をお聞きする事が出来ました。会員の皆さんは殊の他作品やアイデア



アを生かした小物等に興味を持たれた様です。アトリエを後にして帰路に着きました。下呂への到着は午後七時頃だったでしょうか。参加者は二十三名楽しく充実した研修旅行が無事終了出来ました。

ありがとう！

今井 玉峰

私がぜんきゅうさんのことを知ったのは数年前、東北の出羽三山を旅した時。心癒されるカットに「ありがとう がんばります」と書かれたハンカチを土産店でみつけ購入し今も玄関に飾っている。その後、愛西市の寺に嫁いでいる友人宅を訪ねた時「これぜんきゅうさんに書いていただいたのよ」と見せてくれたのが本堂や寺のあちこちに掲げているぜんきゅうさんの作品。「私もぜんきゅうさんの作品大好き。玄関に飾っている「ありがとう がんばります」の言葉にどれだけ励まされていることか」そんな会話をいつもしていた。ところが、昨秋、濃飛支部研修旅行で「アトリエ ぜんきゅう」を訪ねることが出来た。ぜんきゅうさんは休憩中とのことで、優しい奥様が対応してくださった。友人との関係をお話し、その場で友人とも連絡をとり思いがけない縁に感謝。帰りには参加者全員に「ありがとう」の気持ちのこもったお土産を頂いた。後日、私の出した礼状に「とどきました。ありがとう」と素敵な返信の礼状。ぜんきゅうさんに教えられたありがとう。わかっていて中々言えない言葉だが、もともと皆で素直に言い合えたらいと願います。(皆さまにご来館下さりありがとうございますとお伝え下さいと書き添えてあります)

第66回中日書道展

入賞者

- 準大賞 林 幸湖
- 特選 谷川 景仙
- 準特選 磯村 小園/市川 純慧
- 工藤 雅翠/河村 友紀
- 秀逸 成瀬 伸芳/鈴木田木江
- 奨励賞 佐古 知薫
- 佳作 野村 香泉

特選 受賞者

書を始めて

谷川 景仙

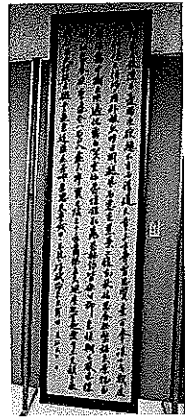


私こと、農作業をやりながら趣味の書を七十歳から始め、今井仙童先生にお世話になり十年余り、一月二回ずつ教室に通わせて頂きご指導を頂きました。中日展にも出させて頂き、賞も取らせていただきました。

歳月の経つのは早いもので、アツとゆう間に十年が過ぎて、一度書をやめて農業だけに専念している時に、中川貴舟先生にお声をかけて頂き、ボケ防止にと思い好きな書を出来る事に感謝し、そして中日展はじめ、他の展覧会にも出させて頂きました。中日展では一科に上げて頂き、又色々の賞をいただきました。そして、お世話になって又十年の歳月が流れ何かと手厚くお世話して下さい、書を楽しみながら継続できたのも、偏に諸先生

方のお陰と深く感謝いたしております。中日展は、毎年出品させて頂きこれが最後になるかあ...と思いつつ今年も出させて頂いたのが、思いがけなく特選と言う賞を頂き、先生も喜んで下さり大変有りがたく、再び書を始めてとてもよかったです嬉しく思いました。

昨年正月に、大腿骨を骨折し入院して六月に退院しよくなりましたが、今度は体調をくずし書をはじめ、趣味もできなくなるかもしれないが、出来るかぎり頑張りたいと思えますのでよろしくお願ひ申し上げます。末筆になりましたが、会の益々の発展と皆様のご健勝を心より、お祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



公募 恵那市美術展

書道の部 かな

市展賞 受賞 おめでとう

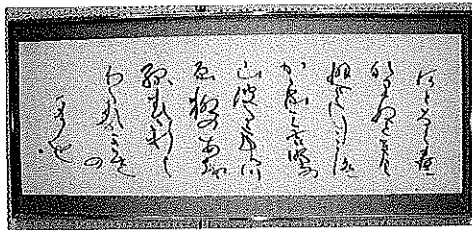
市展賞を受賞して

堀川 洋子



この度、第五十九回恵那市美術展におきまして、市展賞という身に余る賞をいただく事が出来ました。

思いもかけない事だったので、私などの愚作が何かの間違ひではないかと、ただただ驚くばかりでした。書く事は、好きで子供の小さい時一緒に近くの、漢字の指導をして下さる先生に、何年か習いに行っておりましたが、子供も大きくなり、私も勤めや、家の事が忙しくなり書く事を止めておりましたが、又書きたくなり再開する事にしました。十年位、ブランクがありましたので、再開した時には大変でした。また仮名を習うという事で線の流れリズムを習得するのに苦慮しましたが、幸い良き指導者に恵まれ今日まで頑張つて来られました。毎日筆を持たなければと、解つていても、なかなか出来ません。作品をつくるまでは「切りざりざりまで書いて、先生に添削指導をしていただいておりますが、この受賞をきに、もう一度脱皮出来た作品が書ける様になるといいなと、思っています。が、又初心にかえり、古筆を、学び心・運筆のリズムを習得し、自分のものに出来る様、努力したいと思っております。良き指導者、良き仲間、恵まれ、大変幸せな事です。これからも、中日書道展などで入賞出来る様、仲間と切磋琢磨して勉強して行きたいと思っております。皆様よろしくご指導のほどお願い申し上げます。



この度、第五十九回恵那市美術展におきまして、市展賞という身に余る賞をいただく事が出来ました。

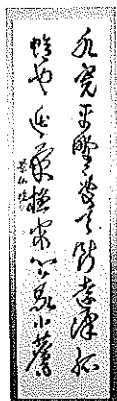
第二十五回 壽展 出品者



今井 仙童



中川 貴舟



谷川 景仙



中垣 幸聲



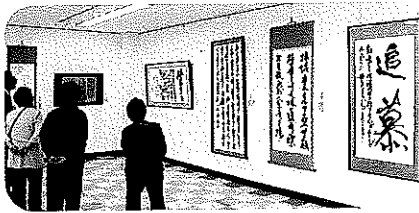
熊崎 明雪

各社中だより

第三十四回 暢陽会展

石原 馨風

日時 十月二十一日(金)～二十三日(日)
場所 中津川市にぎわいプラザ五階
平成二十八年度暢陽会、会員展を中津川市にぎわいプラザ五階にて十月二十一日より二十三日まで開催致しました。

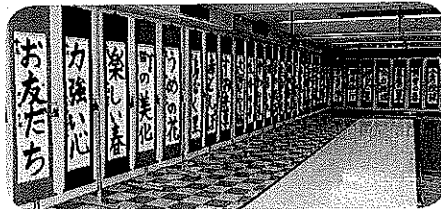


今回は課題を「生きる喜びを書と共」として作品を作り、作品点数約七十点となり、五階会場一杯に会員の力作が展示されました。
作品は楷行草書はもとよりかな・調和体・篆書・水墨画と多様な作品が展示されました、又今回は大作に挑戦として全紙作品も多くあり会場を賑わせました。
そして、二十五年三月に他界された永治秋聲先生の遺作も二点ほど展示され、改めて先生の書の取り組みの深さと作品の素晴らしさに感嘆するものでした。
会期中各方面より大勢の方のご高覧を戴きました。来場の方には感謝申し上げますと共に今後のご指導も合わせてお願い申し上げます。引き続き引続きの懇親会では会員全員にて楽し

く歓談し盛況の内に閉会致しました。

第五十四回 永治書院教育書道連盟 学生書き初め展

日時 二月十二日(金)～十四日(日)
場所 中津川市にぎわいプラザ五階



平成二十八年度永治書院教育書道連盟 学生書き初め展を中津川市にぎわいプラザ五階にて二月十二日より十四日まで開催致しました。学生作品八十一一点指導者及び暢陽会会員の作品十八点総数九十九点の作品が展示されました。

学生は自分の好きな言葉を書く、又大きな字で書く事に挑戦ということで小学生低学年より半切に力一杯書きました。会期中はご父兄を始め大勢の方にご来場を頂きました事を感謝申し上げます。



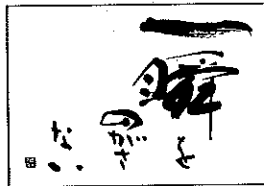
成瀬 伸芳

昨年の十月、自宅近くの茶房「珈琲人」でささやかな私の書個展を初めて開きました。

テーマは「一瞬をのがさない」です。この茶房は、亡き主人と主人の同級生方との和みの場であり、私との思い出でもあります。

彼の存在が記憶から薄らぐのがたまたまなく書き止めたと思ったことより、短歌入門いたしました。入って間もなく思おもよらぬことで「ボンと鳴る音に駆け出す花火好き 亡き夫闇に浮かびては消ゆ」が入賞することとなりました。この作品を夕闇を思う草木染めのシヨールで小ぶりの軸にしてみました。以後、孫たちはほとんどかわいく生長するにつけ、残念に思うのですが、そんな小さな蕾たちに思いをたくし、そんな歌も生まれました。朝ドラの「365日の紙ひこうき」、中島みゆきの「糸」など勇気づけられる感動の詩に出合えること、この頃は書いて飾ってみたいと思うのです。でも作品は簡単にはできず、恥かしい思いで飾りました。一カ月という長い期間でしたが、皆様には、お忙しい中ご高覧を賜りまことにありがとうございました。

皆様のお励ましのお言葉を胸に、これからもゆつくり勉強してまいります。ご指導の程、よろしくお願いたします。



平成29年度 事業活動計画

Table with 3 columns: 事業名, 予定年月日, 実施開催場所. Lists various events like 支部展, 支部集会, 講演会, etc.

編集後記

平成二十九年新しい年を迎える事が出来た。今年の元旦は青く澄んだ空に陽春が爆発と登り目映い程であった。こんな美しく澄み渡った清々しい一年であって欲しいと願った。昨年は「まさか」の多い年であった。左様ではなく魔坂である。今年はトランプに左右されるのではなく日本独自の美しい百人一首和歌の心を大切にしたい。日本の歩むべき道を日本独自の考えと叡智で過るべく先を見据えて全ての国民の幸せのための施策を探って欲しい。主権者である国民一人一人が自分の頭で考え行動出来る力を蓄える事が大切である事は言うまでもないが、今年も広報第六号を発行する事が出来た。濃飛支部の会員は人数は少ないが結束力が強い。編集会議には殆どの方が集まり知恵を出し合う。原稿依頼から原稿のメ切りも守られた。年々内容も良くなっていると思うがマンネリ化だけは避けたいと思う。会員あまの広報御協力に感謝。今年も頑張る。(広報担当 中垣幸登)

●会員募集

書道の好きな方、書道を通じ交流を図りたい方、大歓迎です。詳細は事務局まで。(担当) 大野馨泉 ☎〇五七三二一八二一三二二一八